

# 水辺の 環境



## マツバウンラン

ゴマノハグサ科ウンラン属 *Linaria Canadensis* (L.) Dumont 松葉海蘭

**道** 路の路肩や砂利に覆われた線路沿いの敷地、人里の荒地などに生え、いっせいに花が咲くと淡い紫色の霞がかかったように見えるマツバウンラン。花は小さいですが、群生すると美しく見応えがあります。水資源機構が管理する長良川河口堰の周辺でも、群生は見られないものの、駐車場のわずかな緑地、河川敷などに咲いているのがよく見られます。松葉のような線形の葉を持ち、海辺に生え、ランに似た花をつける日本産のウンラン（海蘭）の仲間であるため、マツバウンランという名がつけられたといわれています。

北米原産の越年草で日当たりのよい砂質土壌を好み、4月から5月ごろ、根元から30cm～60cmほどの高い茎を何本もすっと伸ばし、その先に青紫色の可愛らしい花が穂になって咲きます。根元からは葉のみで花がつかない茎が、地を這うように広がります。

直径1cmほどの花は基部が筒状をしており、先が上唇と下唇に分かれ、上唇は長さ2～3mmの2つの裂片に分かれて直立し、下唇は長さ5

～6mmの3片に分かれて水平に前方に伸びるか下方に反ります。下唇の中央基部は白く盛り上がっています。そして花の基部下面から2～4mmの距きょと呼ばれる尾状のものが後方へ伸びています。距をのぞいた花の長さは6～10mmほど。花の長さが10～12mmで距も長い(6～11mm)、オオマツバウンランという別種も日本に帰化しています。

帰化植物であるマツバウンランは、1941年に京都市伏見区向島で初めて発見され、1980年ごろには関東以西から瀬戸内海沿岸にかけて帰化している程度でしたが、その後分布を広げ、2008年時点で沖縄、青森、岩手、秋田各県を除く合計43都道府県で分布が確認できたと報告されています<sup>(※)</sup>。

可憐な姿に似ず繁殖力が旺盛なため、最初の発見地のある京都府などのように、「今のところ被害は認められないが今後の推移に注意を要し、種子ができる前に抜き取る防除対策が必要な被害危険種 Aa (府独自基準) ランク」にリストアップしているところもあります。

### 【参考文献】

- ・「帰化植物マツバウンランの覚え書き」近田文弘 『植物地理・分類研究』47(1):63-65 (1999)
- ・「帰化植物マツバウンランの分布調査の教材化」渡邊重義・岡本由紀 『生物教育』48(3)136-143 (2008)。  
(※) 記事中の分布報告はこの論文による。
- ・「京都府の外来生物対策・京都府外来生物情報・京都府外来生物データ」(2005年最終更新) 京都府ホームページ
- ・『原色日本帰化植物図鑑』長田武正著 保育社 1976年
- ・『日本帰化植物写真図鑑』清水矩宏ほか編・著 全国農村教育協会 2001年
- ・『街でよく見かける 雑草や野草がよーくわかる本』岩槻秀明著 秀和システム 2006年